

オリックス株式会社

2012年3月期第3四半期決算説明資料

グループCFO
専務執行役 財務本部長
常務執行役 経理本部長

浦田 晴之
縣 信太郎
加藤 高雄

2012年1月31日

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会(SEC)に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因(Risk Factors)」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京・大阪証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

本資料は、調整後の長期借入債務および有利子負債、調整後の総資産および調整後の当社株主資本や、さらにそれらを用いて計算されたその他の指標を含めた米国会計基準に準拠しない(Non-GAAP)特定の財務指標を含んでおります。Non-GAAP財務指標は、米国会計基準に準拠した連結財務諸表や表示を含んでいる最も直接的に比較できる財務指標に対して、分離または代用として考慮されるものではありません。これらNon-GAAP財務指標と米国会計基準に準拠した財務指標を最も直接的に比較することができる調整表につきましては、本資料25ページおよび26ページを参照下さい。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

目次

・業績総括 p.3 ~ 4

・セグメント別実績 p.5 ~ 7

・今後のポテンシャル p.8 ~ 11

まとめ p.12

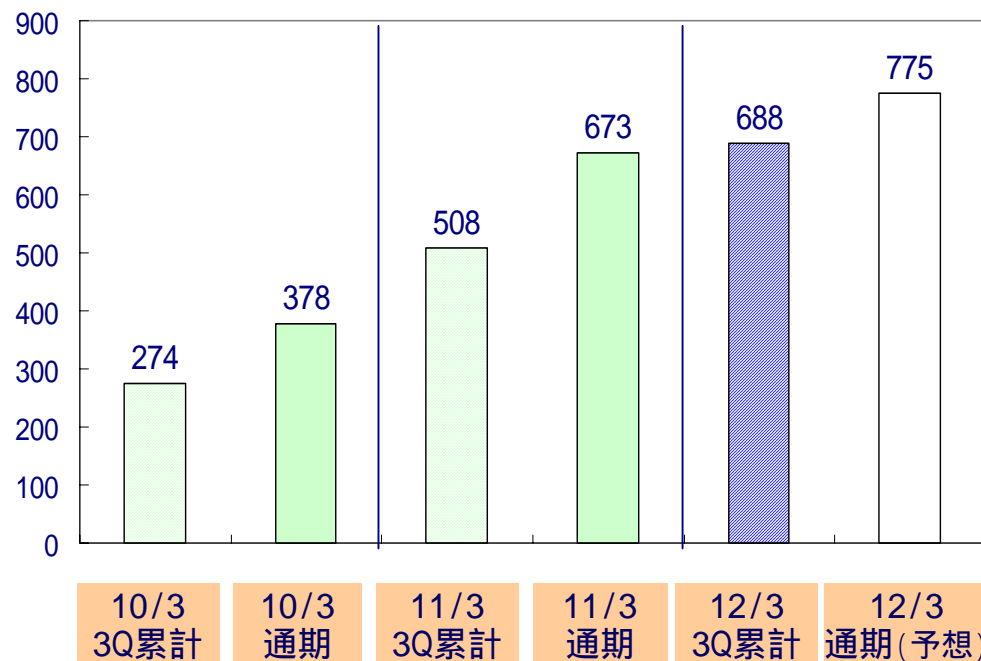
補足資料 p.13 ~ 26

業績総括 (1) 当期純利益

- 前年同期比35%増の688億円(第3四半期累計)
- 通期見通し775億円に対し89%の進捗

当期純利益()

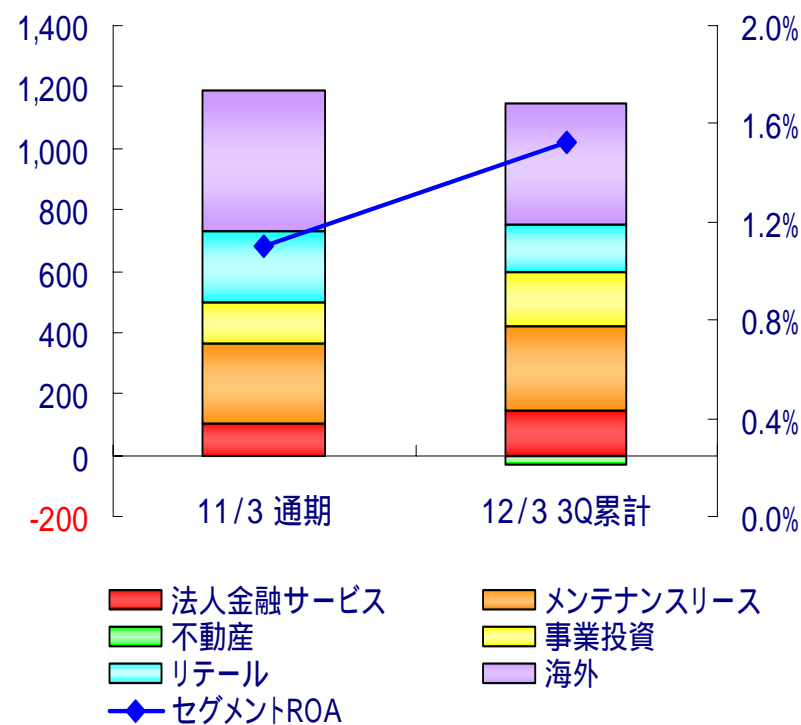
(単位:億円)



当社株主に帰属する四半期純利益

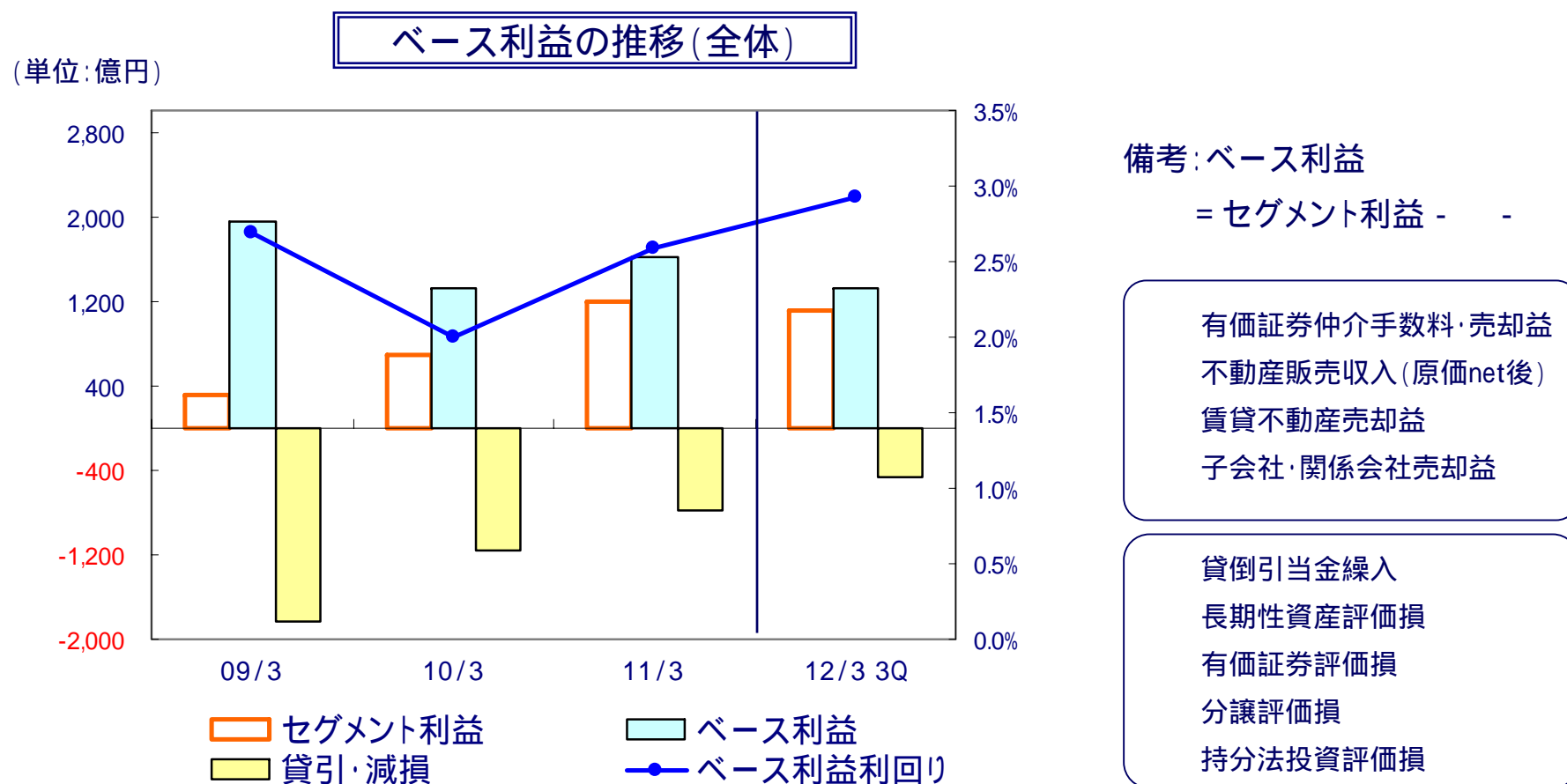
セグメント利益内訳

(単位:億円)



業績総括 (2) ベース利益

- 安定的なベース利益を確保、利回りも前期を上回る



セグメント別実績 (1) 法人金融、メンテナンスリース

(単位:億円) 上段:11/4-12 下段:10/4-12

利益

資産

税後ROA

年換算後

第3四半期までのポイント

法人金融

147	8,605	1.3%
83	10,046	0.6%

- ✓リース収益や手数料収益が堅調に推移
- ✓キューコーリースをグループ傘下に(4Qに連結)
- ✓復興需要・電力需要への対応に注力

メンテナンスリース

271	5,215	4.2%
208	5,250	3.2%

- ✓安定した資産残高、高い収益性
- ✓新車供給不足は上半期で解消
- ✓中古車売却益や再リース収益が伸長

セグメント別実績 (2) 不動産、事業投資

(単位:億円) 上段:11/4-12 下段:10/4-12

利益

資産

税後ROA

年換算後

第3四半期までのポイント

不動産

-29	14,054	-0.2%
35	15,849	0.2%

- ✓順調に資産を圧縮、期末残高目標1.45兆円をクリア
- ✓賃貸物件の利回りは安定、開発中資産の残高が減少
- ✓運営事業が引き続き堅調

事業投資

178	4,994	2.8%
113	5,168	1.7%

- ✓サービスの回収益や手数料収益が堅調
- ✓関連会社からの取込損益増加(1Q)
- ✓あおぞら銀行の株式売却益を計上(2Q)

セグメント別実績 (3)リテール、海外

(単位:億円) 上段:11/4-12 下段:10/4-12

利益

資産

税後ROA

年換算後

第3四半期までのポイント

リテール

153

17,016

0.7%

211

16,570

1.0%

✓銀行は住宅ローン、法人融資ともに残高拡大

✓生命保険は保有契約増加、運用収益も堅調

✓マネックスグループの株式減損を計上(2Q)

海外

393

9,339

3.2%

310

9,213

2.7%

✓増収増益、高収益でグループの成長を牽引

✓アジアのリースは順調に推移

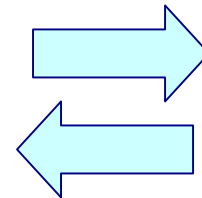
✓米国は収益が全般的に堅調

今後のポテンシャル (1) 国内法人営業

■ 新しい経営課題に対し、グループを挙げてソリューション提供

企業の経営課題

- ◇ 復興需要
- ◇ 電力不足・電力料金値上げ
 - ◇ スマートシティ
 - ◇ 再生可能エネルギー導入
- ◇ BCP見直し
 - ◇ 調達先管理の高度化
- ◇ 円高
 - ◇ 海外移転、海外企業M&A
- ◇ 金融円滑化法の期限切れ
- ◇ TPP参加の影響
- ◇ IFRS適用



情報共有、
ネットワーク
の活用

顧客の
共通化

専門知識の
融合

これまで以上に
山積み



がれき処理用の破砕機

今後のポテンシャル (2)不動産関連:運営

新規運営施設の開業について

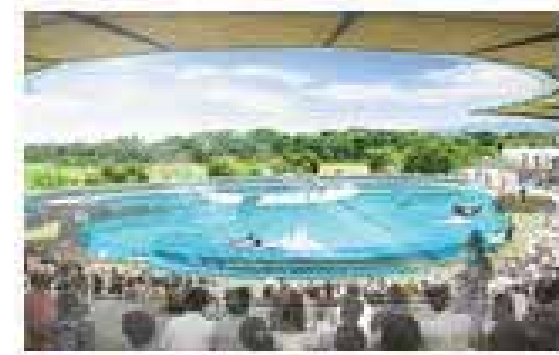
- ✓ 3月京都水族館、5月すみだ水族館
- ✓ 4月オリックス劇場
(旧大阪厚生年金会館大ホール)
- ✓ 強み

専門性

- ・2004年より新江ノ島水族館を運営
- ・大型コンサート等の開催実績を持つ
- 大阪シティドームが劇場を運営

多様な運営ノウハウ

- ・ゴルフ場、ホテル・旅館、介護施設、
研修施設



京都水族館 イルカスタジアム



オリックス劇場

今後のポテンシャル (3)不動産関連:物流

■ 物流施設開発について

- ✓ 33物件の投資・開発実績
- ✓ 現在13物件を保有(開発中含む)
- ✓ 特徴・強み

プランニング力

好立地、高スペック

環境配慮

(例)太陽光パネル設置、

環境性能評価CASBEEで高ランク評価取得

- ✓ 三井物産グループとファンド組成(2011/12/22 プレスリリース)

・アセットマネジメントで継続的に関与



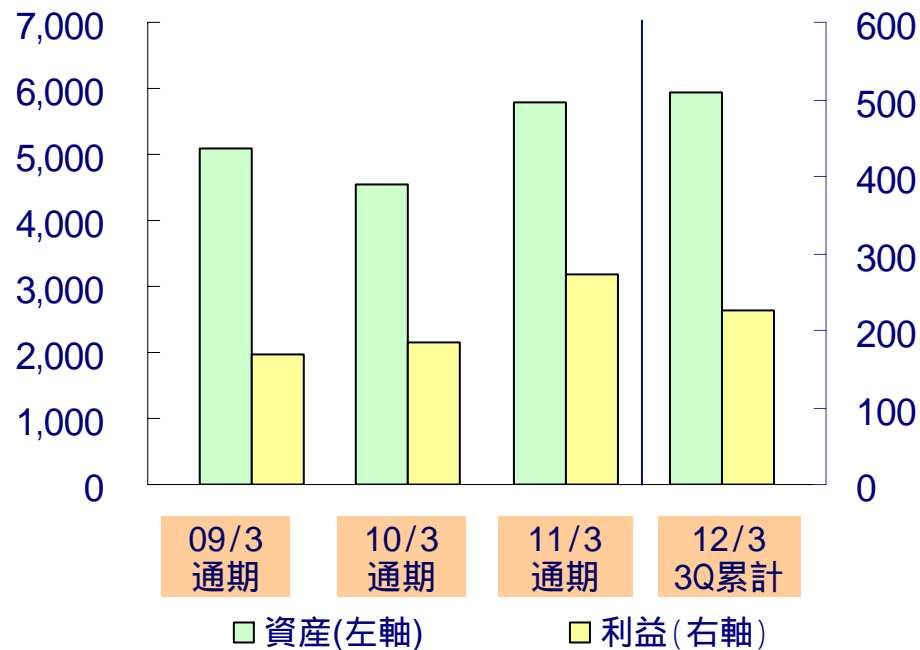
横浜町田ICロジスティクスセンター

今後のポテンシャル (4) アジア・その他

- 利益は順調に推移
- 資産もバランスよく伸長

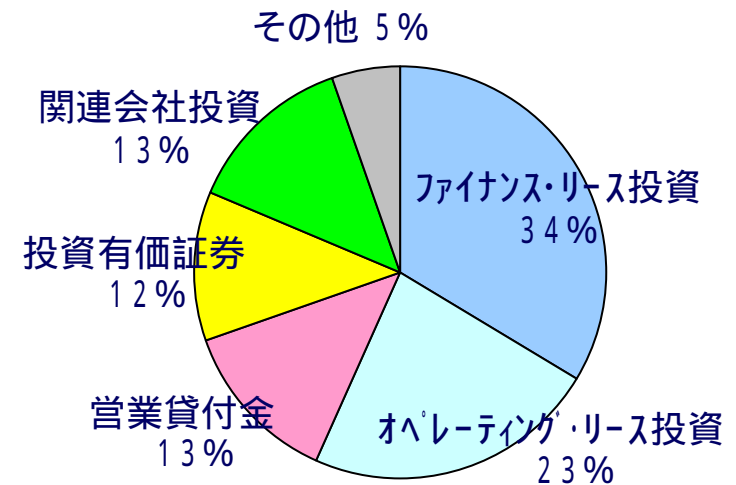
「アジア・その他」の資産、利益

(単位:億円)



「アジア・その他」の科目別資産内訳

(11/12末)



まとめ

- 業績は堅調に推移
 - ✓通期見通し775億円に対し89%の進捗
 - ✓第3四半期は税制改正の影響あり
 - ✓第4四半期のダウンサイドリスクは限定的
- 欧州危機はオリックスにとってチャンス
復興需要、電力需要などもこれから本格化
- 成長路線は変えず、グッドリスクをとる

補足資料

補足資料 (1)業績推移総括

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	12.3期3Q累計
営業収益	9,067	9,631	7,146
当期純利益 ¹	378	673	688
セグメント資産	62,843	61,428	59,224
総資産	77,398	85,816	81,946
株主資本	12,987	13,193	13,576
株主資本比率	16.8%	15.4%	16.6%
株主資本比率 ²	17.2%	17.7%	18.8%
DEレシオ	3.4倍	3.8倍	3.4倍
DEレシオ ²	3.2倍	3.0倍	2.7倍

1 当社株主に帰属する当期純利益

2 株主資本比率 およびDEレシオ は、連結された証券化のためのVIEに帰属する特定の資産や負債、および新会計基準の適用を控除し、調整後で表示しております。米国会計基準に準拠して計算および表示された最も直接的に比較できる業績指標の表示、および米国会計基準と米国会計基準に準拠しない業績指標との調整表につきましては、25ページおよび26ページを参照下さい。

補足資料 (2)セグメント別利益

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
法人金融サービス	-195	100	83	147	177%
メンテナンスリース	233	262	208	271	130%
不動産	1	1	35	-29	-
事業投資	-24	132	113	178	157%
リテール	311	238	211	153	73%
海外	371	456	310	393	127%
セグメント利益合計	699	1,189	961	1,114	116%

非継続事業からの損益(税効果控除前)、非支配持分に帰属する当期純利益および償還可能非支配持分に帰属する当期純利益を加減しています。

補足資料 (3)セグメント別資産

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	11.12
法人金融サービス	11,403	9,683	8,605
メンテナンスリース	5,157	5,027	5,215
不動産	16,774	15,398	14,054
事業投資	5,113	5,060	4,994
リテール	15,788	16,537	17,016
海外	8,608	9,722	9,339
セグメント資産合計	62,843	61,428	59,224

補足資料 (4) 財務の健全性の強化

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	11.12
CP	2,828	1,808	2,021
金融機関借入	25,856	23,609	22,261
社債・MTN	13,392	14,500	13,283
小計	42,076	39,917	37,566
預金	8,533	10,652	10,637
ABS、CMBS 1	2,022	10,182	8,831
長短借入債務および預金	52,631	60,751	57,033
株主資本	12,987	13,193	13,576
株主資本比率	16.8%	15.4%	16.6%
株主資本比率	17.2%	17.7%	18.8%
DEレシオ	3.4倍	3.8倍	3.4倍
DEレシオ	3.2倍	3.0倍	2.7倍

1 ABS、CMBSの増加(10.3期
11.3期)は新会計基準適用の
影響

【指標の定義】

DEレシオ :

長短借入債務(預金除く) ÷ 株主
資本

DEレシオ :

長短借入債務(ABS、CMBS、預
金除く) ÷ 株主資本

株主資本比率 およびDEレシオ は、連結された証券化のためのVIEに帰属する特定の資産や負債、および新会計基準の適用を控除し、調整後で表示しております。米国会計基準に準拠して計算および表示された最も直接的に比較できる業績指標の表示、および米国会計基準と米国会計基準に準拠しない業績指標との調整表につきましては、25ページおよび26ページを参照下さい。

補足資料 (5)流動性のコントロール

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	11.12
コミットライン未使用額()	3,859	4,104	3,892
現金および現金等価物()	6,391	7,321	6,629
手元流動性(+)	10,250	11,425	10,521
市場性短期債務()	6,921	5,593	4,288
手元流動性カバー率((+) /)	148%	204%	245%
長期比率 (ABS、CMBS含む)	87%	90%	90%
長期比率 (ABS、CMBS除く)	86%	88%	88%

市場性短期債務()は、1年以内に償還予定の社債・MTNと、CP残高の合計値です。

長期比率 は、連結された証券化のためのVIEに帰属する特定の資産や負債、および新会計基準の適用を控除し、調整後で表示しております。米国会計基準に準拠して計算および表示された最も直接的に比較できる業績指標の表示、および米国会計基準に準拠しない業績指標との調整表につきましては、25ページおよび26ページを参照下さい。

補足資料 (6)セグメント別業績

法人金融サービス

(単位:億円)

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	842	793	599	535	89%
セグメント利益	-195	100	83	147	177%
セグメント資産	11,403	9,683	10,046	8,605	86%
ROA(税引後)	-0.9%	0.6%	0.6%	1.3%	-

メンテナンスリース

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	2,262	2,258	1,695	1,755	104%
セグメント利益	233	262	208	271	130%
セグメント資産	5,157	5,027	5,250	5,215	99%
ROA(税引後)	2.4%	3.0%	3.2%	4.2%	-

補足資料 (6) セグメント別業績

(単位:億円)

不動産

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	2,150	2,176	1,428	1,485	104%
セグメント利益	1	1	35	-29	-
セグメント資産	16,774	15,398	15,849	14,054	89%
ROA(税引後)	0.0%	0.0%	0.2%	-0.2%	-

事業投資

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	873	896	660	567	86%
セグメント利益	-24	132	113	178	157%
セグメント資産	5,113	5,060	5,168	4,994	97%
ROA(税引後)	-0.3%	1.5%	1.7%	2.8%	-

補足資料 (6) セグメント別業績

(単位: 億円)

リテール

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	1,555	1,488	1,095	1,170	107%
セグメント利益	311	238	211	153	73%
セグメント資産	15,788	16,537	16,570	17,016	103%
ROA(税引後)	1.2%	0.9%	1.0%	0.7%	-

海外

	10.3期	11.3期	11.3期 3Q累計	12.3期 3Q累計	前年同期比
セグメント収益	1,859	1,769	1,287	1,333	104%
セグメント利益	371	456	310	393	127%
セグメント資産	8,608	9,722	9,213	9,339	101%
ROA(税引後)	2.4%	2.9%	2.7%	3.2%	-

補足資料 (7) 賃貸・分譲事業、NRL・特定社債

不動産セグメント 賃貸不動産内訳 (11.12末) (単位: 億円)

物件種別	賃貸中		開発中	合計
		NOI利回り		
オフィスビル	2,495	4.0%	746	3,241
物流施設	479	4.7%	154	633
商業施設	1,613	6.6%	353	1,967
賃貸マンション	1,406	4.9%	121	1,527
その他	774	7.1%	394	1,168
合計	6,767	5.2%	1,769	8,536

不動産セグメント 賃貸不動産の状況推移 (単位: 億円)

	10.3末	11.3末	11.6末	11.9末	11.12末
賃貸中物件の残高	6,603	6,802	7,347	7,057	6,767
NOI利回り	5.2%	4.9%	5.1%	5.2%	5.2%
空室率	6.1%	4.4%	6.3%	5.9%	6.0%
開発中物件の残高	2,644	2,256	1,768	1,821	1,769

不動産セグメント マンション分譲資産の残高推移 (単位: 億円)

	10.3末	11.3末	11.6末	11.9末	11.12末
マンション分譲資産	1,507	1,281	1,199	1,211	1,182

NRL・特定社債の残高推移 (オリックス含む国内グループ会社の保有するNRL・特定社債残高) (単位: 億円)

	10.3末	11.3末	11.6末	11.9末	11.12末
NRL・特定社債	5,593	4,157	3,855	3,519	3,216

補足資料 (8) 貸倒引当金繰入額、減損

貸倒引当金繰入額と減損 () の合計額推移

長期性資産評価損、有価証券評価損、持分法投資評価損、分譲評価損等

(単位: 億円)

	10.3期	11.3期
法人金融サービス	412	130
メンテナンスリース	20	23
不動産	325	340
事業投資	141	158
リテール	96	36
海外	172	103
合計	1,165	790

12.3期 1Q	12.3期 2Q	12.3期 3Q
30	5	-6
-2	0	0
39	55	139
10	14	18
6	119	2
11	17	7
95	210	159

補足資料 (9) アセットクオリティ

アセットクオリティ

(単位: 億円)

	10.3期	11.3期	11.12
ファイナンス・リース 90日以上未収債権額	257	228	201
個別引当対象外貸付金 90日以上未収債権額	123	100	88
個別引当対象貸付金債権額・・・	3,481	2,597	2,466
要引当対象債権額・・・	2,681	1,936	1,684
貸倒引当金残高・・・	1,003	780	712

法的手続、3ヶ月以上未収、業況悪化など、回収に懸念のある債権
「個別引当対象貸付金債権」のうち担保等から全額回収が見込める債権を控除したもの
要引当対象債権額と担保等からの回収見込み額の差を全額貸倒引当金繰入額として処理
～ については、変動持分事業体の連結にかかる新会計基準の適用による影響額を含めていません。

貸倒引当金繰入額と貸倒引当金繰入率の推移

(単位: 億円)

	10.3期	11.3期	12.3期 3Q累計
貸倒引当金繰入額	715	311	83
貸倒引当金繰入率	1.92%	0.89%	0.30%

貸倒引当金繰入額 ÷ (ファイナンス・リース投資の平均残高 + 営業貸付金の平均残高)

補足資料 (10)米国会計基準に準拠しない財務指標

本資料は、米国会計基準に準拠しない(Non GAAP)財務指標が含まれています。具体的には、2010年4月1日に適用された証券化に伴う支払債務(ABS、CMBS)および変動持分事業体(VIE)の連結にかかる新会計基準の適用による利益剰余金への累積的影響額を控除した長期借入債務、当社株主資本および総資産や、さらにそれらを用いて計算したその他の指標を、Non GAAP財務指標として開示しています。

これらのNon GAAP財務指標は、2011年12月31日末日の財政状態を過年度期間と比較する上で意味のある追加的な情報を投資家に提供していると考えています。2010年4月1日に会計基準書アップデート第2009-16号および2009-17号を適用したことで、特定のVIEを連結することが求められました。新会計基準の適用は、連結財務諸表上の資産および負債の著しい増加と利益剰余金(税効果控除後)の減少をもたらしましたが、これら連結VIEへの投資から得られる正味のキャッシュ・フローや経済的效果は変わりありません。したがって、米国会計基準に準拠して計算された財務情報の補足として、特定のVIEを連結することによる資産・負債への影響を除いた財務指標を提供することは、現在の財政状態の全体的な理解を向上させ、新会計基準の適用による貸借対照表の大きな変動を除くこれまでの財務および営業のトレンドを投資家が評価することを可能にしていると考えています。

米国会計基準に準拠した連結財務諸表の補足情報としてNon GAAP財務指標を提供しており、Non GAAP財務指標だけを利用したり、Non GAAP財務指標をその最も直接的に比較できる米国会計基準に準拠した財務指標の代替指標として利用すべきではありません。これらNon GAAP財務指標と米国会計基準に準拠した最も直接的に比較することができる財務指標との調整表を本資料で開示された期間について示すと、26ページのとおりになります。

補足資料 (11)米国会計基準に準拠しない財務指標

(単位:億円)

財務指標		2010.3	2011.3	2011.12
総資産	(a)	77,398	85,816	81,946
控除:ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務*1		2,022	10,182	8,831
調整後総資産	(b)	75,376	75,634	73,115
短期借入債務		5,736	4,786	4,671
長期借入債務	(c)	38,363	45,313	41,725
控除:ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務*2		2,022	10,182	8,831
調整後長期借入債務	(d)	36,340	35,131	32,894
長短借入債務(預金除く)	(e)	44,098	50,099	46,396
調整後長短借入債務(預金除く)	(f)	42,076	39,917	37,566
株主資本	(g)	12,987	13,193	13,576
控除:新会計基準の適用に伴う利益剰余金の累積的影響額*3		-	219	201
調整後当社株主資本	(h)	12,987	13,413	13,776
株主資本比率	(g)/(a)	16.8%	15.4%	16.6%
調整後株主資本比率	(h)/(b)	17.2%	17.7%	18.8%
D/E比率(長短借入債務/株主資本)	(e)/(g)	3.4倍	3.8倍	3.4倍
調整後D/E比率(長短借入債務/株主資本)	(f)/(h)	3.2倍	3.0倍	2.7倍
長期借入比率(ABS, CMBS含む)	(c)/(e)	87%	90%	90%
長期借入比率(ABS, CMBS除く)	(d)/(f)	86%	88%	88%

(*1) 総資産から控除されたVIE連結に伴うファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務。

(*2) 長期借入債務から控除されたVIE連結に伴うファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務。

(*3) VIEの連結にかかる新会計基準の適用に伴う、適用初年度における利益剰余金の累積的影響額。

オリックスに関する追加情報については、弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

ホームページ: URL: <http://www.orix.co.jp>

投資家情報: URL: <http://www.orix.co.jp/grp/ir>

年次報告書2011をご希望の方は上記URLからご参照ください。

オリックス株式会社 経営企画部 IRチーム

〒108-0014 東京都港区芝4丁目1番23号

TEL:03-5419-5041

FAX:03-5419-5901